



学校だより

さいたま市立大谷場小学校

<http://oyaba-e.saitama-city.ed.jp/>

学校教育目標

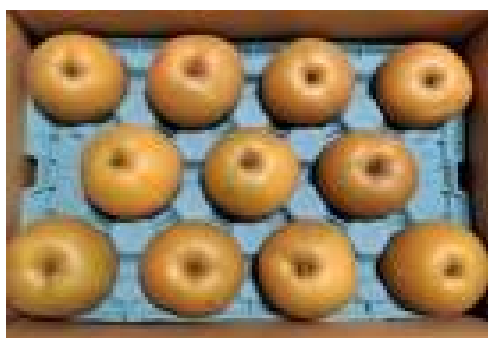
- ひとみが輝く子 —
かしこく
やさしく
たくましく

今月の生活目標

生活のやくそくを守ろう

「父の志」と「母の笑顔」

校長 三上 良正



(Mさんから送られてきた梨)

今年の夏は、台風の迷走、長雨などの天候不順により、全国各地で甚大な被害が出ました。被害に遭われた方々に心からお見舞い申し上げます。私は、この夏、毎日ジョギングを続け、同じように走っている方々とあいさつを交わしたり、卒業生・保護者の方々に、笑顔で励ましの声を掛けて頂く日もありました。ささやかなことですが、気持ちの良い夏休みを過ごせました。大谷場小の子どもたちも、健康で充実した毎日を過ごすことができたことと思います。

ところで、昨年度の学校便り3月号に下記の文章を載せました。

『Mさんは、中学時代、テニス部員として関東大会まで行った、いつも明るく元気ががんばり屋の女の子でした。そして、縁あって、福島県にある「梨農園」に嫁ぎ、毎年、見事な梨を送って来ていました。しかし、2011年に東北大震災が起き、避難所での生活を、さらに、原発事故の放射能の関係で自宅や農園に戻れず、一家で新潟に近い知り合いの所での避難生活をしていました。そんな中、Mさんの旦那さんは、千葉県で一から「梨農園」をつくり、昨年、久しぶりにMさんから見事な梨が送られてきました。避難所、知り合いの所、千葉と移り住んでいく生活は、お子さんを3人抱え大変だったことと思います。しかし、Mさんは、常に明るく前向きで、逆に私がその元気をもらっていました。教えるに、「一生懸命に」「どこでも通用する人間に」と言い続けてきた私ですが、苦しい時ほど笑顔で前向きに頑張るMさんは、私よりはるかに素晴らしい人間になっています。まさに「後生畏るべし」です。(一部抜粋)』

そのMさんの旦那さんが、病気で亡くなられたという新聞記事を、8月中旬に偶然見つけました。旦那さんは、回復しないとわかってからも、黙々と梨の手入れをしていたそうです。そして、Mさんのブログには、「亡くなる前日、収穫作業の手順や用具の場所を、私と長男に伝え、初物の梨のしずくを一滴口に含んだのが最後の食事となりました(一部抜粋)」と綴られていました。故郷ではない地での「志」半ばでの死でした。

私は、すぐにMさんに電話をし、励ましの声を掛けると、「先生に鍛えられましたから大丈夫です。家族だけで葬儀を行いました。高3の長男が後を継ぎたいと言っていますが、とりあえず休園です。9・10月は梨園を開いているので梨狩りに来てください」と明るく元気に答えてくれました。その気丈に振る舞う声に、思わず、目頭が熱くなり涙があふれてきました。家族で梨狩りに行くことを約束し、その後、Mさんのもとに、お悔やみの手紙を送りました。すると、先日、Mさんの旦那さんが丹精込めて作った大きな梨の詰まった段ボール箱が送られてきました。手紙には、「夫の梨、父(旦那さんのお父さん)と一緒にもぎっています。甘いかな、少し召し上がってください。お手紙嬉しかったです。」とありました。

ダンボール箱を開けると、梨の甘い香りが漂い、真夏でありながら、涼しげで実りある秋の気配を感じました。紹介の紙には、「もう一度食べたくなる梨を作ろう」という題名、家族7人全員(生前の旦那さんも含め)が笑顔で梨を手を持つ記念写真、そして、「笑顔担当 ○○ ○○(Mさんの名前)」とありました。それを見て、旦那さんの「志」とMさんの「笑顔」を継いでいるお子さんの未来の姿が、はっきり見えたように感じました。

心新たに、教職員一同、大谷場小学校の子どもたちに、「志」と「笑顔」の大切さを伝えていきます。